

ACG032-17

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月26日14:24-14:37

ベーリング海および北太平洋亜寒帯における過去15年間のレディオラリア時系列フラックス変動とその環境要因 (1990-2005)

Fifteen year time-series of radiolarian fluxes and environmental conditions in the Bering Sea and the subarctic Pacific

池上 隆仁^{1*}, 田中 聖二², 高橋 孝三¹

Takahito Ikenoue^{1*}, Seiji Tanaka², Kozo Takahashi¹

¹九州大学大学院 理学府 地球惑星科学専攻, ²北海道大学大学院 水産科学研究院

¹Kyushu University, ²Hokkaido University

レディオラリア (放散虫類) フラックスと海洋環境変動との対応関係を理解するため, 1990年から2005年にかけてベーリング海Station AB (53.5N, 177W) と北太平洋亜寒帯Station SA (49 N, 174W)で得られたセディメント・トラップ試料を分析した. カウントしたレディオラリア群集は, Station ABで124種, Station SAで110種に及んだ. 概してStation SAよりもStation ABで全レディオラリアフラックスは高く, それらは主に水温等の物理的環境に起因していた. 観測期間において, レディオラリアフラックスの変動パターンは種によって異なり, Rモードクラスター解析を行った結果, Station ABで5つ, Station SAで7つのクラスターに分類された. レディオラリア群集の内それぞれのクラスターの占める割合には著しい変動が見られた. 全レディオラリアフラックスの顕著なピークが観測された1990, 1995, 2000, 2005年前後においてその変動は見られた. これらの経年変動は北太平洋十年振動や北極振動といった長いスケールでの気候変動を反映していると思われる.

キーワード:レディオラリア (放散虫類),セディメント・トラップ,ベーリング海,北太平洋亜寒帯, Station AB, Station SA

Keywords: Radiolaria, Sediment trap, Bering Sea, subarctic Pacific, Station AB, Station SA